

M

14-95

No.  
Date 5.8.3.20

# 風車推進について

別紙(20)

## 内容

概要	頁
	0
1. 向風	1
2. 追風	3
3. 風車の運動量理論	5
4. 横風	7~10

## 参照文献

T.Y. Wu, 13-24 ONR Symp., Tokyo, 1980

## 概要

風車(何型でもよい)を軸としてその動力を直接又は  
 間接(電気的に)に水中プロペラをまわして船を推進  
 する方法が考えられる。

この方法では向風でも船は進むので、帆に較べて  
 有利に見える。  
少なくともこの点では

しかしこの方式では風車<sup>から</sup>によって動力を得、その動力を  
 更にプロペラを介して推力にかえる訳であるから  
 この2回の変換効率による損失は大きいと考えられ  
 るのに対し、帆では風<sup>の力</sup>を直接推力として利用  
 するのでこの種の変換効率はなく、機構も単純  
 そのもので有利と考えられる。

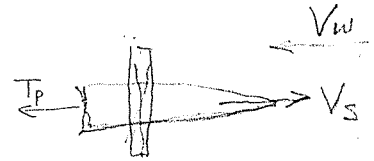
以下風力エネルギーの利用効率を目安として  
 両者の比較を試みる。

詳細な計算がないので具体的な値は不明であるが  
 上述の考察の通り、風車推進では調整が複雑な  
 割りに効率の上限は限られているのに対し、帆では  
 帆面積を大きくすれば効率が向上する。

# 1. 向風

向風では帆は推力を出せない。

風車ではどうか。



風速を  $V_w$ , 船速を  $V_s$

風車の正面投影面積 (プロペラ型なら Disc Area) :  $A_M$

水密度  $\rho_w$ , 空気密度  $\rho_a$

船の拵抗  $R_s$ , プロペラ推力  $T_P$ , (船の風圧拵抗は無視する)  
風車の拵抗  $R_M$ , 風車の得る動力  $P$ ,  
風から

とすると力の平衡方程式は

$$R_M + R_s = T_P \quad (1.1)$$

動力については  $\eta_T$  を伝達効率とて.

$$P = T_P V_s / \eta_T \quad (1.2)$$

風車の風力利用効率  $\eta_M$  とすると.

$$\eta_M = \frac{P}{\frac{\rho_a A_M}{2} (V_w + V_s)^3} \quad (1.3)$$

また  $\eta_M$  の流力的効率として

$$\eta_M = \frac{P}{R_M (V_w + V_s)} \quad (1.4)$$

右の式を導入し,

$$R_M = \frac{\rho_a A_M}{2} (V_w + V_s)^3 C_M \quad (1.5)$$

とすると

$$\eta_M = \eta_H C_M, \quad \dots \dots \dots (1.6)$$

船については 船体側面積  $A_S$  について.

$$R_S = \frac{\rho_w A_S}{2} V_S^2 C_S \quad \dots \dots \dots (1.7)$$

とし  $\eta_H$  は適当に選ぶものとし,  $\eta_H$  は効率も含めて伝達効率  $\eta_T$  を定義するものとする. ( $\eta_T \doteq \eta_H$ )

(1.1) と (1.2) から  $T_P$  を消去して

$$(R_M + R_S) V_S = \eta_T P, \quad \dots \dots \dots (1.8)$$

(1.3), (1.5), (1.7) を代入して整理すると

$$\eta_T \eta_M = \left[ C_M + C_S \frac{\rho_w A_S}{\rho_a A_M} \left( \frac{V_S}{V_S + V_W} \right)^2 \right] \frac{V_S}{V_S + V_W}, \quad (1.9)$$

$V_S \ll V_W$  で抗流内第2項が無視出来るものとする.

$$\eta_T \eta_M \doteq \frac{C_M V_S}{V_W} = \frac{\eta_M}{\eta_H} \frac{V_S}{V_W}, \quad \dots \dots \dots (1.10)$$

とすると  $\frac{V_S}{V_W} \doteq \eta_H \eta_T, \quad \dots \dots \dots (1.11)$

これは風車の抵抗をけし打撃してどれだけ速めるかを示す式であるが, かなり大きい値になるように見える.

このやはり実際は船の抵抗を無視出来るもの.  $V_S$  を大とするには (1.9) の右辺第2項を小さくすればよく, 換言すれば (1.1) は理想最大速度である.

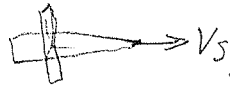
すなわちこの時  $\eta_M$  は常に最大となるよう風車の回転数を保つ

ものと考えている.

## 2. 追風

追風では (1.1) のかわりに

$$T_p = R_s - R_M, \quad \dots (2.1)$$

 $\xrightarrow{V_W}$ 


(1.2) は 同様で

$$\eta_T P = T_p V_s, \quad (2.2)$$

又

$$\eta_M = \frac{P}{\frac{\rho_a}{2} A_M (V_W - V_s)^2}, \quad (2.3)$$

$$\eta_H = \eta_M / C_M,$$

$$R_M = \frac{\rho_a}{2} A_M (V_W - V_s)^2 C_M \quad \left. \vphantom{\frac{\rho_a}{2} A_M (V_W - V_s)^2 C_M} \right\} (2.4)$$

$$R_s = \frac{\rho_w}{2} A_s V_s^2 C_s$$

よって

$$(R_s - R_M) V_s = \eta_T P, \quad \dots (2.5)$$

$$\eta_T \eta_M = C_s \frac{\rho_w A_s}{\rho_a A_M} \left( \frac{V_s}{V_W - V_s} \right)^3 - C_M \frac{V_s}{V_W - V_s}, \quad (2.6)$$

帆では 帆面積  $A_F$ , 帆に釣り力を  $R_F$  とすると

$$R_F = \frac{\rho_a}{2} A_F (V_W - V_s)^2 C_F, \quad \dots (2.7)$$

で 2.4 と 帆の抵抗力が釣り合うとすると

$$R_F = R_B, \quad \dots (2.8)$$

$$\frac{\rho_a A_F C_F}{\rho_w A_s C_s} = \left( \frac{V_s}{V_W - V_s} \right)^2, \quad \dots (2.9)$$

帆の推力係数  $P_F$  は

$$P_F = R_F V_s, \quad \dots (2.10)$$

帆が  $A_H$  で受ける風力エネルギーは  $\frac{\rho}{2} A_H (V_W - V_S)^3$  であるから、帆の風力利用効率  $\eta_H$  は

$$\eta_H = \frac{P_H}{\frac{\rho}{2} A_H (V_W - V_S)^3} = \frac{C_H V_S}{V_W - V_S}, \quad \dots (2.11)$$

(2.9) を代入すると

$$\eta_H = C_S \frac{\rho_W A_S}{\rho_A A_H} \left( \frac{V_S}{V_W - V_S} \right)^3, \quad \dots (2.12)$$

風車の場合の風力利用効率は勿論  $\eta_M$  であるが、プロペラを介在させる為には  $\eta_T$  だけおちて  $\eta_M \eta_T$  となる。よって (2.6) は風車の場合の風力利用効率と見てよく (2.12) と比較すべき量である。

明らかに両式が1項は等しく、風車の場合には左辺が2項だけ有利である。

よって (2.4) を (2.12) に代入すると

$$\eta_H = C_H \sqrt{\frac{\rho_A A_H C_H}{\rho_W A_S C_S}}, \quad \dots (2.13)$$

つまり帆では帆の齧えと船体抵抗から風力利用効率が決まってしまうのに対し、風車では  $\eta_M \eta_T$  つまり風車の効率とプロペラの効率で定まるので常に最大効率を保つておけば良い効率を確保できる。

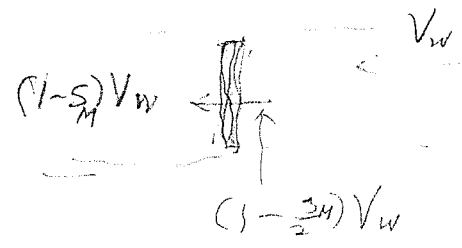
### 3. 風車の運動量理論

$\eta_M, \eta_T$  は荷重率によって決まる。

7°Bペラで ( $\eta_T = \eta_P$ ) として、

荷重率を

$$C_p = \frac{T_P}{\frac{\rho_w}{2} A_p V_s^2} \quad \dots (3.1)$$



とあわせて運動量理論では

$$T_P = \frac{\rho_w}{4} A_p V_s^2 (1 + \frac{s_P}{2}) s_P \quad \dots (3.2)$$

7°B)  $C_p = 2(\frac{s_P}{2} + 1) s_P \quad \dots (3.2')$

$$s_P = \sqrt{1 + C_p} - 1 \quad \dots (3.3)$$

推進効率

$$\eta_P = \frac{1}{1 + \frac{s_P}{2}} = \frac{2}{1 + \sqrt{1 + C_p}} \quad \dots (3.4)$$

風車では抵抗  $R_M$  は (19) から

$$R_M = \frac{\rho_a}{4} A_M V_w^2 (1 - \frac{s_M}{2}) s_M \quad \dots (3.5)$$

荷重率は (1.5) の定義と同じで

$$C_M = \frac{R_M}{\frac{\rho_a}{2} A_M V_w^2} = 2 s_M (1 - \frac{s_M}{2}) \quad \dots (3.6)$$

よって

$$s_M = 1 - \sqrt{1 - C_M} \quad \dots (3.7)$$

流が失ったエネルギーは単位時間には

$$P' = \frac{\rho_a}{2} \underbrace{A_M}_{2.5} V_w^3 (1 - \frac{s_M}{2}) [1 - (1 - s_M)^2] \quad \dots (3.8)$$

効率  $\eta_H$  は (1.4) の定義と同じで

$$\eta_H = \frac{P}{R_M V_W} = 1 - \frac{S_M}{2}, \quad \dots \quad (3.9)$$

一方風力利用効率  $\eta_M$  は (1.6) より 上式と (3.9) から

$$\eta_M = \eta_H C_M = 2 S_M \left(1 - \frac{S_M}{2}\right)^2, \quad \dots \quad (3.10)$$

(3.6), (3.7) から

$$\text{Max}[C_M] = 1, \quad \text{Max}[S_M] = 1, \quad \dots \quad (3.11)$$

故に (3.9), (3.10) から そのとき

$$\eta_H = \frac{1}{2}, \quad \eta_M = \frac{1}{2}, \quad \dots \quad (3.12)$$

(3.10) を最大とする点では

$$\text{Max}[\eta_M] = \frac{16}{27} \approx 0.59 \quad \text{for } S_M = \frac{2}{3}, \quad \dots \quad (3.13)$$

このとき

$$\eta_H = \frac{2}{3}, \quad C_M = \frac{8}{9}, \quad \dots \quad (3.14)$$

又 (3.8) より

$$P = \frac{\rho_a A_M V_W^3}{2} \left[2 S_M \left(1 - \frac{S_M}{2}\right)^2\right] \approx \frac{0.59}{2} \rho_a A_M V_W^3, \quad (3.15)$$

これは風車が静止しているときの  $\frac{2}{3}$  倍で、効率は  $\frac{1}{2}$  と少し異なってくる。

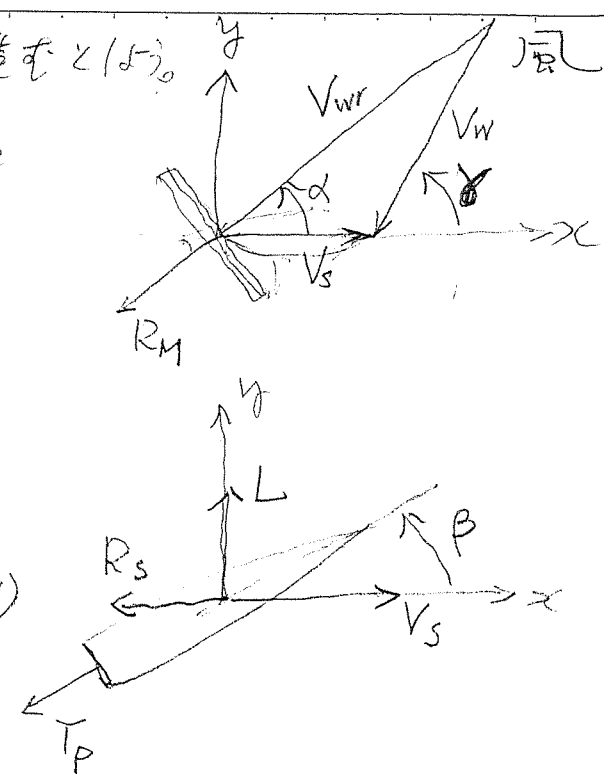
例えば  $V_s$  で風に向かって動いているとその急激な消費電力を差し引くと純動力は

$$P_N = P - R_M V_s = \rho_a A_M (V_W + V_s)^3 S_M \left(1 - \frac{S_M}{2}\right) \left[1 - \frac{S_M}{2} - \frac{V_s}{V_W + V_s}\right], \quad (3.16)$$



### 4. 横風

船はx軸方向に  $V_s$  の速度で進むとしよう。  
 風車は相対風速  $V_{wr}$  の方向に  
 直角に向いて抗力  $R_M$  としよう。  
 風速  $V_w$  は静止座標では  
 x軸と  $\theta$  の角をなすものとする。



$$V_{wr} = \sqrt{V_w^2 + V_s^2 + 2V_w V_s \cos\theta}, \quad (4.1)$$

$$V_{wr} \sin\alpha = V_w \sin\theta, \quad (4.2) \quad T_P$$

船は図のように船路と  $\beta$  なる角度の方向に向いて走り揚力  $L$  と抗力  $R_s$  が働き、プロペラは推力  $T_P$  をもつ。

よって

$$R_M = \frac{\rho_a}{2} A_M V_{wr}^2 C_M, \quad \dots (4.3)$$

$$L = \frac{\rho_w}{2} A_S V_s^2 C_L(\beta), \quad \dots (4.4)$$

$$R_S = \frac{\rho_w}{2} A_S V_s^2 C_B(\beta), \quad (4.5)$$

$$T_P = P \eta_T / V_s, \quad \dots (4.6)$$

$$P = \frac{\rho_a}{2} A_M V_{wr}^3 \eta_M = \eta_H R_M V_{wr}; \quad (4.7)$$

$$\eta_M = \eta_H \cdot C_M, \quad \dots (4.8)$$

$x$ -方向の力の平衡は

$$R_M \cos \alpha + R_S = T_P \cos \beta = \eta_T \frac{P}{V_S} \cos \beta, \quad (4.9)$$

$y$ -方向では

$$R_M \sin \alpha = L + T_P \sin \beta = L + \frac{\eta_T P}{V_S} \sin \beta, \quad (4.10)$$

(4.9)から

$$\eta_T \cos \beta = C_M \frac{V_S \cos \alpha}{V_{WR}} + \frac{P_W A_S}{P_a A_M} C_S \left( \frac{V_S}{V_{WR}} \right)^3, \quad (4.11)$$

(4.10)から

$$\eta_T \sin \beta = C_M \sin \alpha \frac{V_S}{V_{WR}} - C_L \frac{P_W A_S}{P_a A_M} \left( \frac{V_S}{V_{WR}} \right)^3, \quad (4.12)$$

2式から

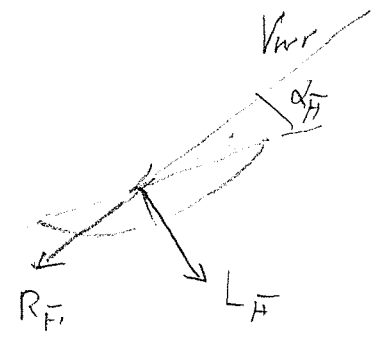
$$\eta_T \eta_M = \frac{V_S}{V_{WR}} \left[ C_M \cos(\alpha - \beta) + \frac{P_W A_S}{P_a A_M} \left( \frac{V_S}{V_{WR}} \right)^2 \{ C_S \cos \beta - C_L \sin \beta \} \right], \quad (4.13)$$

$$\tan \beta = \frac{C_M \sin \alpha - C_L \frac{P_W A_S}{P_a A_M} \left( \frac{V_S}{V_{WR}} \right)^2}{C_M \cos \alpha + C_S \frac{P_W A_S}{P_a A_M} \left( \frac{V_S}{V_{WR}} \right)^2}, \quad (4.14)$$

帆の場合には  $R_M$  のかわりに 図のように 帆の迎角を

とすると

$$\left. \begin{aligned} L_H &= \frac{\rho_a}{2} A_H V_{WR}^2 C_{LH}(\alpha_H) \\ R_H &= \frac{\rho_a}{2} A_H V_{WR}^2 C_{RH}(\alpha_H) \end{aligned} \right\} \dots (4.15)$$



で力の平衡は 2 つの式から

$$L_H \sin \alpha - R_H \cos \alpha = R_s \quad , \dots (4.16)$$

よって 2 つの式から

$$L_H \cos \alpha + R_H \sin \alpha = L \quad , \dots (4.17)$$

利用出来る仕事は  $R_s V_s$  であるから 風力利用効率  $\eta_H$  は

$$\eta_H = \frac{R_s V_s}{\frac{\rho_a}{2} A_H V_{WR}^3} \quad , \dots (4.18)$$

(4.16), (4.17) から

$$C_{LH} \sin \alpha - C_{RH} \cos \alpha = \frac{\rho_w A_s}{\rho_a A_H} C_s(\beta) \left( \frac{V_s}{V_{WR}} \right)^2 \quad , \dots (4.19)$$

$$C_{LH} \cos \alpha + C_{RH} \sin \alpha = \frac{\rho_w A_s}{\rho_a A_H} C_L(\beta) \left( \frac{V_s}{V_{WR}} \right)^2 \quad , \dots (4.20)$$

$$\eta_H = C_s \cdot \frac{\rho_w A_s}{\rho_a A_H} \left( \frac{V_s}{V_{WR}} \right)^3 \quad , \dots (4.21)$$

よって (4.19) と (4.20) から

$$C_L(\beta) / C_s(\beta) = \frac{C_{LH} \cos \alpha + C_{RH} \sin \alpha}{C_{LH} \sin \alpha - C_{RH} \cos \alpha} \quad , \dots (4.22)$$

計算としては先ず  $\alpha$  と  $V_{wr}$  をあらかじめ仮定してその  $\alpha$  に  
 対し最適な  $\alpha_H$  を与えれば  $C_{LH}$ ,  $C_{DH}$  が決まるから一方向船の  
 polar Diagram に  $\beta$  (4.22) から  $\beta$  が決まる。

折々の  $A_s$ ,  $A_H$  を (4.19), (4.20) に代入して  $V_s$  が決まる。  
 (4.21) に代入すると  $\eta_H$  が定まる。

(4.19) を (4.21) に代入すると

$$\eta_H = \sqrt{\frac{\rho_a A_H}{\rho_s \rho_w A_s}} (C_{DH} \sin \alpha - C_{DH} \cos \alpha)^{\frac{3}{2}}, \quad (4.23)$$

となって  $\eta_H$  の流力係数  $C_{DH}$  が与えられるとすると要ら  
 帆面積の平方根に比例して効率  $\eta_H$  が上がる。